

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 2月 6日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471504112		
法人名	有限会社エムプランニング		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	広島県福山市神村町6409番地2		
	電話番号	(084)934-8814	
自己評価作成日	令和 元 年 11月 18日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月 26日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 2 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園風景の残る地域の中で、ご利用者様お一人一人にあわせて、共感とコミュニケーションを重視したバリデーション療法、タクティールケア、音楽療法などを用い、穏やかに家庭的な雰囲気を持った施設づくりにをしております。ボランティア団体や、地域の方々も、定期的にお越しくださり、交流も積極的におこなわれております。花見や、紅葉の時期はドライブに出かけて喫茶店でお茶などを楽しんだり、近所の祭りに出かけたり、年に一度行うホーム主催の夏祭りにはご家族をはじめ大勢の方々来られてとても楽しいイベントとなっております。現在20代から70代までの年齢幅広い職員が皆仲良く、活気を持ち、明るく楽しいホームとなっております。今後はより一層地域の核ステーションとしての役割を果たすべく、もっと色々な仕掛けを考えながら、職員一同努力していきたいと考えている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>市の西部に位置し、周りには田畑も少しあり、時々収穫等で季節が感じられると共に穏やかに過ごせる環境である。デイサービス事業所が併設されていて、イベント等も合同で行い、利用者同士の交流も図られている。ケア面に関しても事業所の運営方針の一項目にある「地域に密着し、自然を生き、生活に張りや楽しみのある暮らしができる支援をする」という事を意識し、その人の力量を活かす場面作りをされ、一人ひとりが生きがいを持って一日を大切に過ごしてもらえる様取り組まれている。全利用者に平等に声かけし、寄り添い、思いに耳を傾け、思いに沿い、その人らしく、住み慣れた地域で穏やかに安心、安全に過ごしてもらおう事を大切に、ホーム長はじめ、全職員が一丸となり支援している。地域との関わりも一員として地域行事に積極的に参加すると共に駐車場を祭りの会場に提供する等、地域貢献や地域資源の活用に繋げられ、町内会長や民生委員の協力を得られ今では地域と共に歩まれている。職員は常に利用者や家族とのコミュニケーションを大切にされている。誰かが見てる時も見てもない時も変わらない対応をするという事を行動目標として掲げ、実践されている。家庭的な雰囲気であると共に安心できる事業所となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関に掲示して、朝のミーティング、社内研修などにて復唱し、理念の共有に取り組んでいる。	玄関や各ユニットに掲示し、一人ひとりが日々意識しながら、実践に繋げている。また、ミーティング等でも周知すると共にそれを基に行動目標も作成し統一したケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、老人会の行事には積極的に参加、協賛し、地元の方々と交流を図っている。地域の夏祭りに参加し、ホームの夏祭りにも来ていただいている。	地域の夏祭りには駐車場を提供し、利用者も参加し愉しまれている。地域のボランティアの受け入れも積極的にされ多くの方々との交流に努められている。また、事業所の夏祭りにも案内を出し、沢山の参加が得られた。イベントには、できるだけ参加し地域の一員として交流している。町内会長の訪問もあり、協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族、地域に対して認知症の症状に対する対処法、予防、維持に効果的な運動など月1回の便りや運営推進会議などで発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括センター、民生委員、町内会長、家族、福祉を高める会元事務局の方などに参加していただき、事例をあげたり、話題の取組記事など、職員のみではなく参加いただいている地域の方からも情報を発信していただき、大変有意義な勉強会となっている。	家族、町内会長、民生委員、地域の福祉を高める会の役員の方、包括職員等の参加の下、現状を広範囲に報告し意見交換の場とし貴重な意見が多く得られ、サービスに活かしている。議題を決めて意見を頂く事もある。また、地域の情報も頂く等、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは色々な機会でのコミュニケーションをとり、サービスの向上に取り組んでいる。	疑問点や困難事例等がある場合は、ホーム長が対応し、助言や情報等も得られていると共にその都度現状や取り組み等についても報告し、協力関係を築く様務めている。包括との連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を掲げ、身体的拘束廃止委員会にて身体拘束禁止行為をきちんとマニュアル化し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また日中は玄関を施錠せず、気分転換の散歩などの活動を行っている。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3ヶ月毎に勉強会を行うと共にリスクに対しての話し合いを持ち、様々な工夫を模索し、身体拘束をしないケアに取り組まれ、玄関の施錠を含めて身体拘束はしていない。帰宅願望の方には要因を全職員が把握し、見守りに対応され、動きを制止せず、抑圧しない支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修煮て、管理者や職員は虐待事例などを周知し、利用者の自宅や事業所内での虐待がないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、制度についての勉強会を行い、理解をしている。成年後見制度の利用者は現在おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定などの際は必要書類を用い十分な説明を行い、理解していただいている。家族などからの質問にも丁寧にお答えし理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族などからの意見、要望は、訪問時など聞いたときには、すぐ管理者、職員内で共有し、検討会議をして運営に反映させている。その検討内容は運営推進会議などで発表し、貴重なご意見をいただいている。	訪問時や行事等で現状を報告する際、要望や意見等の把握に努めている。又、運営推進会議の中でも聞く機会を設けている。色んな場面での意見等については職員間で共有し、検討され運営に反映させると共に個々に対応もしている。ホーム便りも毎回送付し現状把握してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、職員の意見を聞く機会を設け、積極的な意見、改善すべき点は改善するための方法を皆で模索し、運営に反映させている。	日頃気付きがあれば聞いている。また、ミーティングでも聞く機会を持ち、多くの意見の把握に努めている。色んな場での意見等は検討すべき案件に対してはミーティングで検討し、反映させている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力、実績、勤務状態は随時報告を受け、個別面談の機会も設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員に内外の研修に積極的に参加を勧め、トレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会、会合先で知り合った方々と交流し、情報交換などし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、バリデーション療法、タクトイールケアの手法を取り入れ、お一人一人に寄り添う介護をすべくコミュニケーションを密にとり、信頼関係を早く築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の不安や要望などの思いをじっくりと聞き、安心していただけるよう信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、困っていること、求めていることを見極め、その解決策を探るべく対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生きてこられた中での経験、知識を教えていただき、掃除や調理、洗濯物を畳むなどの家事活動を職員も共感しながら行い、日々楽しく生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際には、施設での生活状況や問題点など報告、相談し、ともに本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの方の訪問などは還元しており、またドライブなど行く場合は、思い出の場所、自宅などに立ち寄りするなど支援に努めている。	家族や親戚等の訪問も多く、友人の方が訪問される事もある。馴染みの美容院を利用されている利用者もいる。お正月には自宅に1泊したり、日帰りする方もあり、できるだけ、馴染みの場や人との関わりが少しでも長く続く様柔軟な支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察、把握し、皆様が仲良く過ごせるよう、部屋や席などを配慮し、お互いが支えあって過ごしていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も利用者や家族からの相談には積極的に乗り、施設や病院の紹介などきめ細やかなサービスを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話などから本人の思いや希望を聞いて、職員内で話し合い、本人の思いに沿った最善のケアをすべく努力している。	会話する時間を多く持ち、その中から汲み取る様にすると共に利用者同士の会話や個別対応時等で把握する事もあり、それぞれの思いには可能な限り思いに沿うようにしている。帰宅願望や食べ物等の希望が出る。表出困難な方には其の日の朝の顔の表情や声かけから判断し検討するようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人一人の生活歴やなじみの暮らし方は最初にしっかりとアセスメントを行い、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の過ごし方、状態、有する力などは早い時期に把握し、カンファレンスを行い、より良いケアに結び付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設長、管理者、計画作成担当者、担当職員を中心としてそれぞれの意見やアイデアを取り入れケアプランの作成を行っている。	基本情報やアセスメント、家族の要望を基に暫定計画を作成し、1ヶ月間お試され、その期間の課題やニーズ等について職員の意見、医師の所見、家族の要望等を基に担当者会議で検討し、現状に即した本計画を作成している。モニタリングや見直しは3ヶ月毎としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録は毎日個別に行い、職員皆が情報を共有しながら実践や計画見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じ、様々なサービス支援ができるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の出張サービス、大正琴や踊り、音楽療法などのボランティアの方々の受け入れ、自治会、老人会などよくコミュニケーションを取り、地域全体と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望があれば今までのかかりつけ医に引き続き通院していただき普段の様子をきちんと申し送り、良好な連携を図っている。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科は毎週、他科については基本家族対応であるが柔軟に通院支援もしている。かかりつけ医の方もいる。結果については、特記があればその都度報告される。状況が同じであれば家族の訪問時等に伝え、常に家族と共有し、安全確保に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、日常の健康管理や変化にはいち早く対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院される場合は、病院関係者との密な情報共有はもちろん、出来るだけ早期に退院し、お迎えできるよう情報交換、相談に努めている。またそういう場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者、家族には、最初に様々なケースに対する対応の仕方を話し合い、かかりつけ医などと連携して支援に取り組んでいる。	利用開始時看取り指針を基に説明され、理解が得られている。状況変化が起きた場合は家族、医師等三者で繰り返し話し合い、家族の意向をその都度、確認し、方針を共有され、主治医との連携を取りながら、看取り計画を作成し、家族の協力を得、支援に取り組まれている。看取り体験もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。社内研修などでも定期的に応急手当、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練の実施、毎日の火元を点検し、地域の方々による協力訂正もできている。合同の災害訓練も実施している。	年2回、通報、消火、避難誘導等の自主訓練を実施し、実践力を身に付け、慌てず速やかに対応できる様取り組まれている。地域との協力体制も出来ている。又警報器を外に取り付け、周辺にも聞こえるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシーについては研修を行い、職員皆がその重要性を認識し、きちんと実践している。	プライバシー、個人情報、接遇等の研修は年1回実施し、全職員が日々認識され、どんな状態になっても個々を尊重した声かけや対応をするよう取り組まれている。気付いた時には注意し合い、プライバシーの確保に努めている。馴れ合いになっても節度ある対応を心掛ける様周知もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共感とコミュニケーションを重んじるバリデーション療法とタクティールケアを用いて、ご本人の思いや希望をくみ取り、それが生かせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々ゆったりとお一人一人のペースを大切にしながら、ご希望に沿う形で生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、誕生会や外出時には化粧を手伝ったり、きれいな洋服を着てもらったりしている。また月一回出張理美容サービスを受け入れ、顔ぞりやや白髪染めなどにも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンを生かし、季節に合わせたメニューを皆様の好みや力量を生かしながら職員も一緒に食事づくりや片づけをしている。	個々の身体状況に合わせた食事形態となっている。食材も多く、栄養バランスにも配慮し、味付けも良く、急がさず、その人のペースを大事にされている。食を促す声かけや食材の会話をしながら、楽しみの時間となっている。力量により下膳等できる事をしてもらい、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人一人の食事、水分量を一日を通じて記録し、状態を職員皆が把握し、ケアに生かしている。特別に医師の指示が出来ているかについては十分注意し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。また口腔ケア加算を取っており、毎月提携歯科医院の歯科衛生士による歯磨き指導などがあり、痛みなど不具合がある場合などは早期に歯科医師に報告し治療してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表にて個別の排せつパターンを把握し、お一人一人の力量を見ながら、できるだけトイレでの排せつができるよう、トイレ誘導や声掛けを行うなどしている。	個々の時間帯で声かけし、トイレでの排泄に努め、生活習慣や機能維持、気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。自立の方も数名いる。また、排便チェックも行い、不穏にならない様取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつ記録により状態を把握し、便秘の場合は水分補給、野菜、寒天、ヤクルト等の飲食物の工夫や運動を促し、なるべく自然に出るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には入力日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。	週3回、湯温や順番等の希望にも対応し、入浴が楽しみとなる様取り組まれている。専用のシャンプーを使用される方もいる。現段階では拒否の方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を問い入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け、生活パターンを見直すことで安眠していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人一人の健康状態、活動状況は職員皆が情報共有しており、服薬の支援、状態の把握を行っている。また薬の知識を深めるため、薬剤師の方に薬の作用、副作用などレクチャーをいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの生活歴や楽しみごとを把握し、様々なレク、運動、散歩、ドライブややりがいや喜びを感じていただくことのできる役割活動など個別に対応し、一日の活動に取り入れれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見などの季節行事や外食などにでかけている。天気が良いときは施設周辺に散歩に出かけたり、カフェでお茶したりなど皆雅楽しみにされている。	地域の敬老会や夏祭り、近隣の事業所のカフェへ参加したり、希望で喫茶店に行かれる事もある。ドライブも定期的に行かれている。また、お花見や紅葉狩りにも出かけ、気分転換や楽しみごと、思い出づくり、五感刺激となる支援に努めている。散歩は日課とし、外気に触れる機会も持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お小遣いは職員が一括管理したうえで買い物をしているが、お一人一人の力量、希望のうへお金を使ったりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話は自由に使用して、またそれぞれ年賀状など季節の手紙を書いたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを感じることが出来るような空間設計にしており、室内は明るく、夏は暑くなる天窓にはカーテンを設け、またエアコンの空気が循環するようシーリングファンを取り付け、冬は暖かく過ごしていただけるよう工夫している。	玄関も広く、季節の生け花もあり、理念も大きく掲げられている。リビングには利用者の写真や季節が感じられる装飾品、また、手作りカレンダーや時計もあり、時の認識に繋がられている。対面キッチンからの食事づくりの音や匂いが五感刺激となる。室温にも配慮され、死角や不快な匂いもなく、清掃も行き届き快適に過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。活動の時も親しいグループで楽しむことが出来る環境づくりを行っている。利用者によっては場所を移動をされていて一人で落ち着いて過ごすことが出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向によりご自宅で使い慣れた家具や備品を持ち込んでいただき、好みに応じて畳を敷いたり、絵や花を飾ったりしていただいている。また安全に過ごせるよう、家具の配置を考えたりしている。	家族との思い出の写真やテレビ、ダンス、好みのぬいぐるみ等が持ち込まれ、自宅に近い環境づくりをされている。又、お孫さんの書かれた書道等も飾られている。手作りカレンダーや時計もあり、時の認識に繋がられている。ソファも置かれ、その人らしさが感じられ、落ちついて過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を畳んだり、食事の準備などの家事は出来る方には積極的にしていただくよう、声掛けしている。また手すりやいすを必要なところに配置し、混乱や失敗を招くような原因はできるだけ排除し、安全かつ自立した生活を送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	○	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム太陽

作成日: 令和 2 年 2 月 26 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防火、消火、避難訓練は実施しているが、施設内での実施が主体であり、その中で地域住民の方へに参加を呼び掛ける形をとっている為、どうしても参加者に偏りがあったり、全体的な危険意識の共有が取れていない感がある。	地域の方々の協力体制を強化する。	運営推進会議で消防署、運営推進会議構成員、入居者家族等の協力の下合同避難訓練を実施し、実際に避難誘導して頂き、地域の方々の協力を働き掛ける。又、火災報知器の使用法に於いては、朝の申し送り時間を利用し、定期的に周知徹底する事で、職員全員がいついかなる時でも使用に耐え得る環境を目指す。	1年
2	53	外出支援に於いて、現状月1回のレク委員企画の下、外出に紐付けているが、利用者の身体レベルやその月のレクの内容により支援出来ている利用者に偏りが生じている。	利用者全員の平等な外出支援を目指す。	その人のステージに合わせた支援方法を複数用意する。外出が困難な方には、施設前の外気浴を優先的に取り入れ、月一回のレクが外出支援にそぐわない月は手頃なドライブによる喫茶食を代替案として付加、外出支援を現実的にするための、日頃の機能訓練を強化する。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。